

□議員名：岩本信子

1 市内循環バスの実現

論点	地方バス路線維持に1億3,600万円の補助金を出しているが、どう考えているのか。
回答	補助金は国・県・市の補助路線がある。県は複数市で10キロ以上の運行、国の対象路線は1日当りの輸送量が15人から150人である。それ以外が市単独補助金路線である。

論点	厚狭地区と小野田地区の一体感のある交通網の整備はどうか。
回答	厚狭から小野田地区間のバスは厚狭から宇部方面に1日10往復、埴生から小野田駅・宇部方面は18往復運行されている。小野田南地区から厚狭新幹線口の移動には乗り継ぎが必要で不便な状況は認識しているが、新しい路線を作ることには需要や収支バランス等もあり十分な検討が必要だ。

論点	バスに対する市民ニーズの把握はできているか。
回答	山陽小野田市地域公共交通会議に市民公募委員がいる。市内2,000世帯へのアンケート調査でニーズを把握している。

論点	路線バス再編により市内循環バスの実現はどうか。
回答	バス利用者は減少傾向にある。増やすことが課題であり循環バスは効果的ではあるが、長距離の循環では効率的な運行ができないので、コンパクトな地域での実施は効果的循環になると考える。

論点	27年度船木鉄道の補助金が1億1,268万2,000円であるが、バス会社の経営努力はどうか。
回答	バス会社も経費面で、人件費・燃料費など鋭意努力をしている。市民からの要望もバス会社に検討されるよう伝えている。

論点	厚狭駅と山口東京理大を結ぶ路線がまちの発展に必要なだが、今は公園通りからすべて宇部行きである。どう考えるか。
回答	直通はないが、今後検討しなくてはならないと思っている。理科大生の交通手段は確保しなければならないと考える。

論点	バス路線は市民の生活を守る地域資源である。大きな補助金を出していることに市民が理解していく政策が大事だと考えるがどうか。
回答	公共交通に対する情報提供と、市民や事業者の協力が必要であり十分努力していく。

2 住民自治による空き家対策

論点	市内の暮らせる空き家は把握できているのか。また空き家バンクの取り組みはどうか。
回答	条例で管理不全の空き家は、実態調査をして対応しているが、それ以外の空き家は把握していない。利活用ができる空き家対策に取り組む方向で鋭意努力している。

論点	条例以外の空き家の管理の考えはどうか。
回答	個人情報観点から空き家の所有者を自治会に伝えるのは難しいが、空き家所有者に文章等を出す際に橋渡しはできる。

論点	以前空き家バンクに取り組んでいたが、どうなったのか。
回答	生活安全課が空き家対策に取り組んでいるが、事務文書になく尻すぼみになった。生活安全課で危険家屋苦情処理で管理していたが、トータルな対応を取り組みたい。

論点	空き家の相談体制を整えていくべきではないか。空き家バンクを作り、定住促進にもいかすべきではないか。
回答	空き家バンクは多くの自治体が成功していない。空き家情報をため込んでも意味が無い。不動産会社や NPO 等の協力が必要、制度設計についてはもうしばらく待つてほしい。

3 学校給食の公会計化について

論点	給食センター建設が延期になったが、給食の公会計化は十分に検討する時間はあるが、どう考えるか。
回答	センター化の後も私会計を継続する予定としているが、供用開始まで時間があるので会計のあり方について更に研究する。

論点	公会計化は教育委員会だけの問題ではない。総合教育会議で市長が決めることができるのではないか。
回答	個人的意見はあるが、努めて公平であるほうがよい。4月13日全国市長会の理事会の顧問弁護士に連絡をしている。その後の教育総合会議で決めていく。